

聖霊降臨の主日

2010.5.23

使徒たちの宣教 2・1-11

ローマの教会への手紙 8・8-17

ヨハネによる福音 14・15-16,23b-26

今日は聖霊降臨の祭日です。「聖霊降臨」ということばで私たちが理解しているのは、今日の第一朗読で聴いた「使徒たちの宣教」に記されている出来事です。けれども、今日祝う聖霊降臨の祝いは、イエスの昇天の後に、弟子たちが体験した「聖霊降臨」という不思議な出来事だけを記念して祝うのではありません。洗礼の恵みを受けて、イエス・キリストを信じる者たちとされた私たちの上に、今も働いておられる神の霊である聖霊への信仰を新たにする感謝の祝いでもあります。そのことを理解するためにも、今日の三つの朗読で聴いた聖霊の働きに注意を向けるのが良いと思います。

今日のヨハネによる福音は、聖霊降臨の日に弟子たちの上に下った聖霊は、イエスが弟子たちとの別れに当たって約束しておられた聖霊であることに私たちの注意を向けさせてくれます。イエスは十字架の死を前にした、弟子たちとの最後の晩餐の席で、弟子たちのもとに来てくださる聖霊を約束してくださったのです。今日の福音の二行目にある、ヨハネ 14 章の 16 節を見ると、「わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる」。とイエスは言われています。イエスがここで言われる弁護者とは聖霊であることが、もう少し先の 26 節のおことばを見ると分かります。そこでは次のように言われています。「しかし、弁護者、すなわち父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる」。

十字架につけられて死に、復活して父なる神のみもとに行こうとされているイエスは、後に残される弟子たちにこのような約束を残してくださったのです。イエスが弁護者と呼ばれる聖霊は、十字架の死と復活を通して父なる神のもとに行かれるイエスが、父なる神に願い求めてくださることによって、父なる神が遣わしてくださる、新たなもう一人の弁護者です。その弁護者は永遠にあなたがたとともにいるために、父なる神が遣わしてくださる聖霊であるとイエスは言われています。「永遠に」とイエスが言われるのは、イエスは今や弟子たちを残して父なる神のもとに行こうとされているからです。また、「永遠に」とイエスが言われるのは、弟子たちの一人ひとりの生涯を越えて、弟子たちの宣教を通して、イエスを信じる者とされた人々とともに「世々に渡って」ということです。その

聖霊が「弁護者」と呼ばれるのは、弟子たちのもとに来てくださる聖霊が、かつてイエスがそうされたように、弟子たちを呼び集め、弟子たちとともにいて、弟子たちを教え導き、守ってくださるからです。

事実、今日祝う聖霊降臨の出来事を伝える「使徒たちの宣教」は、聖霊降臨によって聖霊に満たされた弟子たちの力強い宣教の活動を語ると同時に、その宣教によってイエス・キリストへの信仰に導かれた最初の教会の信者たちの上にも、弟子たちに注がれたのと同じ聖霊が注がれたことを伝えています。「使徒たちの宣教」はペトロやヨハネ、ステファノやフィリポ、バルナバやパウロといった使徒たちや最初の宣教師たちの宣教によって、キリスト教の教会がユダヤ人たちの枠を超えて、広く当時のローマ帝国の各地の異邦人たちの間に広まって行った歴史を語っていますが、このような教会の活動を可能にしたのは、聖霊降臨によって弟子たちの上に注がれた聖霊の働きによることであると私たちに告げているのです。

ヨハネ福音書と「使徒たちの宣教」に語られている聖霊は、今も、イエスの約束のことばの通り、イエス・キリストの名が唱えられる教会において私たち一人ひとりの上にも注がれていると、私たちは信じています。ミサのたびごとに、私たちは洗礼の時に受け入れた信仰を新たに、父なる神と、その御子イエス・キリストへの信仰告白に続けて、「聖霊を信じます」と聖霊への信仰を告白します。この信仰告白は、今も私たちとともにいて、私たちをイエス・キリストへの信仰に導き、私たちをイエス・キリストのもとに呼び集めてくださる聖霊への信仰告白です。今日聖霊降臨の日、私たちは私たちの上に注がれ、私たちをイエス・キリストの教会に呼び集め、私たちを父なる神の子らとしてくださった聖霊のみわざへの感謝を込めて、私たちへの聖霊降臨を祝ってこのミサをささげているのです。

このミサの中で、私たちはイエスが約束してくださった聖霊を受けて、イエスが語られたみことばに耳を傾け、イエスが語られたすべてのことを、ここに集う私たち一人ひとりへのイエスの語りかけと受け止めさせていただきます。このミサの中で、私たちはイエスのうちに宿っておられた、イエスの霊である聖霊を受けて、イエスとともに、イエスが私たちすべての者の父としてお示しくくださった父なる神に向かって「アッバ・父よ」とそのみ名をお呼びするのです。そして、このミサの中で、今も私たちの中にイエス・キリストを現存させてくださる聖霊の働きによって、イエス・キリストの御体、御血とされたご聖体をいただくのです。

今日の福音の最初に戻って見ると、イエスは「あなたがたは、私を愛しているならば、私の掟を守る」と呼びかけておられます。聖霊は私たちをこのイエスの愛の掟へと呼び戻してくださいます。イエスの命じる掟とは、言うまでもなく

「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」という掟です。真に愛するためには、イエスがそうされたように、愛する者のために自分をささげ、自分を捨てなければなりません。ローマの教会への手紙でパウロが言っているように、それは、肉の人間である私たちの力によってだけでは出来ることではありません。愛することの難しさを感じるたびに、十字架のイエスに目を上げ、聖霊の助けを祈り求めたいと思います。イエスが愛されたように愛し続けることが出来るよう、私たちの中にいてくださる聖霊の力により頼みたいと思います。そのような祈りを込めて、今日の聖霊降臨の祝いのミサをともにささげたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高